

裏磐梯の自然と森に生きる植物

K・M

～倒木更新～

私が裏磐梯に行って1番見たいと思ったのは、倒木更新でした。先生の倒木更新の話聞いてとても興味をもって「もっと詳しく調べてみたい！！」と思い、倒木更新を中心に調べ学習をしました。

倒木更新は天災や伐採、寿命などによって倒れた古木を礎にして新たな世代の木が育つことです。木から何百個と落ちる種の中で倒木の上に落ちて倒木更新ができるのは1個の種だけなのです。100分の1の確率でしか倒木更新は起こりません。

倒木更新で木が育って行くためには病気や倒木の腐るスピード、水分保持など様々な環境の条件が必要です。すでに周囲に多数の樹木が生育している森林の地面上では笹などの下草により針葉樹の新芽は太陽の光をうまく浴びられずに生育できません。でも倒木の上だと倒木によって下草や笹が押しつぶされ、光が当たりやすくなりうまく生育できます。また暗色雪腐病やファンディウム雪腐病などに侵されて死滅してしまうこともあります。この2つの病気は、発病した時の症状は同じですが感染する季節や木の種類がちがいます。暗色雪腐病はエゾマツ、アカエゾマツ、トドマツ、ヒノキアスナロ、アカマツ、クロマツ、



スギ、ヒノキ、サクラ、などに自然感染します。稚樹、幼樹、針葉樹の育苗などに感染し、葉や幹を枯らすので天然更新の重要病害の1つです。ファンディウム雪腐病はエゾマツ、トドマツの幼齢木、人口造林に発病し天然更新、人口造林の障害となります。これらの病気が幼樹や稚樹の成長を妨げる原因となります。倒木の上では幼樹や稚樹の成長を妨げる病菌が少

ないので病気による成長の妨げは少ないです。

そして倒木の上には苔とともに水分を保持し適度な水分が倒木の上にはあるので幼樹の成長には好条件です。

これらの条件がそろわないと倒木更新は起こりません。

倒木更新の古木は幼樹が成長していくと、いつかは腐ってなくなってしまいます。なくなった後は、倒木があったということが形として残ります。

これが根上りと呼ばれるものです。



倒木の上の新芽は倒木から栄養をもらい、倒木の上で生長を妨げる新芽からのがれます。100分の1の確率でしか起こらなくて、様々な環境の条件がそろわないと起こらない倒木更新は自然の中で起きるキセキだと思いました。

私は裏磐梯で変わった倒木更新も見ました。倒木ではなく何らかの理由で木の上半分が折れてしまった木の上に新しい芽が育っているものを見ました。倒木ではないけれど古木を礎にして新しい世代の木が育っているからこれもある意味倒木更新と同じなのではないかと私は思いました。

～ブナ林～

裏磐梯ではブナの倒木更新を見ることができました。ブナ林へ行くまでの道にはトリカブトやうるしなどたくさんの植物を見ました。

ブナの特徴は温暖地域に生育する落葉樹です。高木で大きいものは高さ30メートルに達するものもあります。樹皮は灰白色できめ細かく、よく地衣類などがついていて独特の模様に見えます。ブナ林は山の奥へ行くほど幹の太い大きなブナの木が見られました。最初のほうはまだ若くて幹の細いブナの木が見られました。ブナ林では樹齢何十年かのまだまだ若いブナや樹齢何百年にもなる大きいブナ、病気や寿命で幹が腐ってきているブナなどたくさんブナが見られました。もっと奥へ行けば樹齢何百年とかではなく何千年もたつブナが見られたかもしれません。



～森のダム～

ブナ林の途中で橋口先生に「森のダム」の話を聞きました。森のダムとは雨が木の葉から幹へ、幹から土の中へとゆっくりと入っていきます。その雨が土の中でろ過されて行き、きれいな水となり出てきます。雨水はいろいろな場所から土の中に入って行きますがろ過された水はいろいろな場所から出てくるのではないそうです。1か所ではなく数か所決まったところからだいたい出るのです。その他にもブナ林では、とてもいい香りのする植物やブナの赤ちゃんなどが見られました。

～自然と人との関わり～

2日目のコースでは「人と自然との関わり」がテーマでした。私は今まで倒木更新やブナのことを調べていたので知らないことがたくさんありました。熊の足跡、熊棚、リスのくるみの食べあとを見られました。熊の足跡は畑にありました。熊棚とは熊が木に登り木の実を食べる時に、実を枝ごと取って食べ、枝を下に敷いていった結果木の上に棚状のものができることです。実際に熊棚を見た時はすごくびっくりしました。

そこで横田先生に聞いた話だと人間が熊にひどいことをして熊を傷つけ熊が人間を襲うようになってしまったそうです。私は動物たちの住む環境を破壊してしまうことも自然破壊と同じことだと思うので、人間を襲ってしまう熊をこれ以上増やさないためにも、熊の住む環境を壊してはいけないと思いました。動物だけでなく植物も一緒に自然を壊すようなことは絶対にしてはいけないと思いました。

この先、人と自然との関わりの中で人が自然を傷つけてしまうと自然がどんどん破壊されてしまいます。そうならないためにも自然はなるべくそのまま傷つけないようにすることが大切だということ学びました。

その後は展望台にも行きました。展望台からの景色はとてもきれいでした。そこからは猪苗代湖が見られました。猪苗代湖は日本で4番目に広い湖で、別名、天鏡湖(てんきょうこ)とも呼ばれています。その猪苗代湖が一望できてとてもきれいな場所でした。その後天鏡閣にも行きました。天鏡閣とは旧有栖川宮、高松宮翁島別邸のことで国の重要文化財にも指定されています。中にはシャンデリアとかビリヤード場などがあり身分の高い人たちの暮らしが少しだけわかりました。何もかもが豪華で本当にすごかったです。

その後不思議なキノコを見ました。タマゴダケというキノコで、その名の通り地上に出る時に大きな卵のような袋から生まれ出てきます。出始めはまるで山に卵が落ちているかのようです。私がタマゴダケを見た時は卵のような袋からキノコが半分でていたものでした。その近くに完全に入っているものと出ているものがありました。本当に山に卵が落ちているみたいでびっくりしました。

またスズメバチがミツバチの巣を乗っ取ろうと偵察しに来ているところも見られました。スズメバチは1匹で、ミツバチは5、6匹で羽をブンブンさせて威嚇していました。普段は見られない貴重なものを見ることができました。



～ウォークラリーで・・・～

3日目のウォークラリーでは5色沼や遠藤現夢の墓に行きました。コースから外れて山道を350mほど歩いたところに遠藤現夢の墓がありました。遠藤現夢は1888年の裏磐梯噴火に伴う岩屑なだれに覆われて数十年間荒地だった裏磐梯を、もう一度野鳥のさえずる森にしたいと願い、約2年かけて気の遠くなるような1340haに及ぶ植林をなしました。遠藤現夢の前にも地元の佐藤栄次郎が塩川町の白井徳次と手を組み、若松の資産家から借金し、植林を試みましたが失敗に終わり、次に喜多方市で造り酒屋を営んでいた矢部長吉と善四郎親子も植林を試みたが全財産を使い果たし失敗に終わりました。その後矢部から植林の権利を譲りうけた会津若松の遠藤十次郎(現夢)は、1910年頃から植林を始めたそうです。

5色沼を初めて見てとてもきれいでした。青や緑、赤など色があって5色沼の見え方も日によって違うそうです。

この林間学校の3日間でたくさんの自然にふれて、たくさんのことを学びました。そしてこの自然体験学習で知りたいことをどんどん広げて行って学習を重ねる楽しさを知りました。

